

## 令和6年度 宮崎県立日南くろしお支援学校 学校関係者評価

4段階評価 「4…期待以上である」「3…ほぼ期待どおりである」「2…やや期待を下回る」「1…改善を要する」

評価項目	評価指標	学校の自己評価コメント	自己評価	保護者評価	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
1 小・中・高一貫した教育	① 学校生活を楽しく過ごし、お子さんが意欲的に参加している。/児童生徒が意欲的に学校生活を送ることができるように、保護者及び校内職員間で共通理解を図っている。	○感染症の流行が落ち着き、学校全体での行事や活動を推進することができた。児童生徒会主催の挨拶運動や放送活動で活躍する姿を県教育委員会広報番組で発信し、児童生徒のよさを伝える機会が持てた。休み時間に、学部を越えて一緒に遊ぶ姿も見られている。	3.0	3.5	3.8	【1 小・中・高一貫した教育】 ○一貫教育の利点を活かした教育を続けてください。 ○子供たち一人ひとりの個性と能力を長期的に丁寧に見つめながら育てる姿勢が伝わってきました。 ○学校生活の様子がテレビなどで見られる機会があり、子供たち自身が喜び、自主的に動いて学校生活を送っている姿が見られました。 ○学校生活の中での生徒会活動を支援された結果として、声を出す挨拶運動や放送活動は教育の原点だと考えますので、素晴らしいです。
	② 根拠に基づいた小・中・高一貫した教育課程の充実を図るとともに、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」に基づいた指導の実践に努めている。	○個別面談期間に、保護者と「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を活用しながら目標設定を行うことで日々の教育に生かせるようしている。PDCAサイクルや評価のフィードバックも定着してきている。卒業後の進路実現に向けた学習も充実させている。	3.1	3.4	3.3	【2 多様な学びに応じた専門性】 ○個人の個性を重視して工夫した取り組みができていると感じています。 ○多様なニーズをより確実に掘り起こし開花させるためには、校内外のみならず外部の様々な取り組みを学び導入することが大切ですので、それを実践されている事は素晴らしいと思います。 ○授業の様子を見た際、子供たちの視点に立ち分かりやすく教育されている姿が見られました。小学校部の連携、基本的な対応だと思います。SSWなどは何か問題の有無に拘わらず、地域などもっと接する機会があると良い。
	③ 発達段階に応じた小・中・高一貫したキャリア教育の推進を図り、将来の自立と社会参加に向けた力の育成に努めている。	○卒業後の進路を見据え、学部間での連続性を高め、卒業後への移行を意識した取組と連携を行っている。保護者が他学部の学習や行事を参観する機会を増やし、12年間の学びの連続性や成長を分かりやすくした。 ○キャリアパスポートの活用及びデータ化を進め、キャリア教育の充実を図った。	3.1	3.4	3.8	【3 安心・安全な学校生活】 ○日頃の訓練がいかされていると思っています。 ○長年この点についての改善をお願いしていましたが、外部専門家に検証していただき、かつ地域とともに連携して対策が講じられたことが分かり、大変ありがとうございます。 ○災害時の対応を校長からお聞きし、根拠に基づいた対応だと思います。具体的な対応策で安心できると思いました。 ○防災意識については非常に高まっていると感じます。あらゆる事態を想定した場合に地域一丸となった連携体制の構築が重要だと考えますので、地域の他施設を含めて協力していきましょう。
	④ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、地域の資源や人材と連携した学習活動に取り組んでいる。	○産業現場等における実習では地域の企業や事業所から多くの協力を得られている。 ○安心・安全な学校となるよう、SSW(スクールソーシャルワーカー)やSC(スクールカウンセラー)、スクールソーター等の外部関係機関と連携し、対応している。	3.0	3.4	3.5	【4 地域社会とつながる学校】 ○日南陽祭など交流のイベントとして認知されています。今後も継続してください。 ○子供たちを支援する様々な資源が今後さらに減少していく中で、地域との密接な連携と理解は今後さらに大事になってきますし、それが子ども達のさらなる成長にはつながると思いますので、今後も積極的な取り組みに期待しております。 ○地域とのつながりについては、積極的に行っていただいている、感謝しています。更なる交流ができるよう、地域のメニューを増やすよう努力します。 ○色々と地域とつながって取り組みをされていると思います。現状維持ではなくどんどんやってほしいと思います。福祉や医療との連携ももっとできると良いです。
2 びに門応多様じたな専学	① 一人一人の児童生徒の目標達成に向けた「授業力」の向上を目指し、職員研修の充実に努めている。	○県教委主催の研修のほか、宮崎大学主催の授業づくりに関する研修会に参加した。 ○校内においては、初期研修のほか、年度当初に特別支援教育初心者を、長期休業期間に、校内講師による障がい種や特性に応じたミニ研修を開催した。	3.0	3.4	3.5	【5 高等特別支援学校設置準備の推進】 ○説明不足の点もあるかと思います。いろいろな機会に高等特別支援学校の説明をお願いします。 ○選択肢が増えるということは、子供たちの頑張り次第で夢や希望が膨らむと言う点でさらなる自信と成長につながるかと思いますので、今後も丁寧に準備を進めていただければと思います。 ○初年度8名と私的には少なく感じます。説明会等の機会をもっと増やせると良いです。
	② 児童生徒の多様なニーズに応じた専門性の向上を目指し、自立活動の指導の充実を図る。	○自立活動について、外部講師を招聘した研修や校内研修をとおして、児童生徒が持つ「よさ」を生かした視点を重視し、事例研究と流れ図作成に取り組んでいる。また、職員間で指導の在り方についても研鑽を深めている。	3.1	3.4	3.3	【総評】 ○先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。先生方が素晴らしいで子供たちも生き生きしています。今後ともよろしくお願ひします。 ○様々なことに前向きに丁寧に取り組まれている姿勢がしっかりと伝わる内容で素晴らしいと思います。子供たち一人ひとりの明るい未来のため引き続きよろしくお願いします。とても素晴らしい評価だと思います。子供真ん中の気持ちで今後も学校運営をしていただきたいです。 ○地域から見て学校が明るく感じます。これは運営に携わっている校長先生をはじめとする職員の皆様の意識の高さではないかと思います。これからも子供たちのために地域とともに頑張ってください。
	③ 計画的で実践的な防災・避難訓練、防災教育を取り組んでいる。	○今年度は震度5以上の大きな地震や大雨の影響により、学校生活や登下校において有事の体制を複数回実施したが、子供たちは落ち着いて対応することができた。 ○有事の際の危機管理体制を整理したことにより、職員の危機管理意識が高まっている。	3.0	3.4	3.8	
3 な学校安心・生活安全	① 様々な危機に対応できる危機管理体制の充実を図り、安心して学べる教育環境づくりに努めている。	○地震と津波を想定した避難訓練に外部専門家や県教育委員会、行政、地域の方々にも参加していただいた。専門的見知りを得て、安全な避難について方針を固めることができた。年3回の避難訓練をとおして、課題解決及び対策の強化を図っている。	3.3	3.6	4	
	② 計画的で実践的な防災・避難訓練、防災教育を取り組んでいる。	○日南市立鶴戸小中学校と日南市立東郷小中学校、本校中学部の3校合同で交流学習を実施した。 ○居住地校交流や日南振徳高等学校福祉科との心のバリアフリー活動を実施した。	3.1	3.4	3.8	
	③ 地域と連携を図り、伝統文化の継承に努めている。	○地域の事業所や学校からの要請に応じてチーフコーディネーター及びコーディネーターが訪問を行い、相談・対応を実施している。年度をまたいで相談が継続しているケースもある。 ○県特別支援教育研究連合の知的障がい研究部会の担当校として研究大会を開催した。	3.2	3.2	3.3	
4 地域社会とつながりの学校	① 地域で共に育つ児童生徒の交流及び共同学習の充実を図っている。	○風田神楽保存会と連携し、地域に根ざした活動を推進している。本年度は高等部2名の生徒が風田神社奉納祭に向けて活動している。参加生徒の確保に向けた校内での啓発が課題である。	3.1	3.4	3.8	
	② 南那珂地区における特別支援教育のセンター校として機能を強化するとともに、地域の特別支援教育の充実に努めている。	○令和8年度の開設に向け、校内及び併設校や協力校とも協議を深めている。 ○県主催の説明会にも複数の保護者が参加し、関心が高いことがわかったが、本校からの発信を行い、保護者や関係団体への周知を図る必要性を感じている。	3.1	3.2	3.3	
	③ 地域と連携を図り、伝統文化の継承に努めている。	○就労率100%が実現できるような魅力ある学校づくりの検討を進めている。 ○今年度の卒業生は一般就労率が高く、そのノウハウを生かすとともに、高等部職業コースにおけるデュアルシステムも活用していく。	3.0	3.4	3	
5 支援の学校等の推進特置	① 県の高等特別支援学校設置準備委員会及び作業部会と連携を図り、適切に高等特別支援学校設置準備に取り組んでいる。	○就労率100%が実現できるような魅力ある学校づくりの検討を進めている。 ○今年度の卒業生は一般就労率が高く、そのノウハウを生かすとともに、高等部職業コースにおけるデュアルシステムも活用していく。	3.1	3.2	3.3	
	② 「職業コース」の取組のノウハウを生かし、教育課程等の作成に努めている。					